



株式会社ユーシン精機

本社：京都府京都市南区久世殿城町555番地
TEL:075-933-9601(人事課直通)
https://www.ype.co.jp/
従業員数：689名(2020年3月現在)
設立：1973年10月
主な事業内容：取出口ロボットを中心にプラスチック射出成形工場の合理化、FA化を推進する機器、システムの開発、製造、販売。



JOB INFORMATION

正社員募集

『おっちゃんとおばちゃん』の求人広告を
応募とわかるように、どこかに明記してください。

- 第2新卒 歓迎
- 2022年3月 大学卒業見込
- 文理不問

※2022年3月卒業見込みの方の採用につきましては、2021年6月1日以降に選考解禁します。

※参考
以下は、前年度の募集要項となります。

- 総合職(技術系):開発、設計、製造、品質管理 等
- 総合職(外勤営業):国内営業 等
- 総合職(事務系その他):海外営業、調達、営業管理 等

【給与】修士了 月給230,500円
学卒 月給211,500円(高専専攻科含む)
【諸手当】通勤手当、児童手当、残業手当、持株奨励金、売上奨励金 他

【勤務地】初任地は原則京都本社
【勤務時間】8:30~17:30
【休日】週休二日制(土・日・祝)
※年に数回、土曜日出勤あり

【福利厚生】会員制福利厚生サービス、社員持株会制度、財形貯蓄制度、退職金制度、慶弔見舞金制度、資格取得奨励制度、通信教育奨励制度、育児支援制度、マイカー通勤可(四輪・二輪)

【連絡先】jinjisaiyo@kyo.ype.co.jp
075-933-9601(平日9:00~17:00)



松田さん 事業推進企画部

大学で医療工学を学び、ユーシン精機の「ハートフル・テクノロジー」の視点に共感して入社しました。日々、生産性を考えながら働く社風から、無駄な議論や作業は少なく、社内の人間関係はさっぱりしています。また、最近では余暇を楽しめるような福利厚生の拡充を図ったり、女性活躍や両立支援にも積極的に取り組んだりする会社の施策がうれしいです。私も2人目の子どもが生まれたタイミングで育休を取得しました。

無駄のない、効率的な働き方と
福利厚生の充実が魅力

子育てしながら
安心して働けます

歴史が長く、利益率が高い。安定して働ける職場を求めて6年前に新卒で入社しました。生産管理課や技術部の事務を経て、今は営業スタッフのサポート業務をしています。入社時は緊張しましたが、優しく笑顔で声をかけてくれる先輩に恵まれました。子育てと両立しながら時短勤務で働く人が多く、私も産休・育休を経て、今夏、復職しました。やりがいをもって働いています。



中大路さん 営業本部 営業管理部



vol.1 2人の若手社員

これが
取出口ロボットだ!!

世界シェアトップクラスの
取出口ロボットメーカー
ユーシン精機。
その技術革新を生む
社風とは？

「人間にしかできない創造的な仕事のために、ロボット技術で人を非人間的な作業から解放したい」、そんな思想をもつ機械メーカー・ユーシン精機。技術革新を続け、業界シェアナンバーワンの製品を生み出す理由の一つに、独自の「社風」があった。

①安定・安心の
トップメーカー



取引先は国内外に約3000社。取出口ロボットのほか、工場全体の自動化(FA)システムの提供を通じて製造業の競争力強化をサポートしている。売上高200億円、経常利益率10%以上、自己資本比率85.3%と、極めて安定性の高いトップメーカーだ。

②オン・オフ
くっきりの社風



2017年に働き方支援チームを発足し、効率的な働き方や時間外労働の削減、産業医と連携した社員の健康づくりなどを推進。オンとオフをうまく切り替えられる社風がある。また、仕事と家庭の両立を支援するために、社員同士の交流イベントなども開催。左写真は「Yushin Mama's Meeting」の様子。

③リーダーは
女性社長



経済産業大臣賞の受賞や、米経済誌「フォーブス・アジア版」の「アジアで最も影響力のある女性企業家トップ50(2015年)」に選出されるなど、女性敏腕経営者として名高い小谷真由美社長。他のメーカーに比べて女性が活躍しやすい環境が整えられている。

世界のプラスチック製造
現場にユーシン精機あり

日用品から家電、医療機器、果ては宇宙探査機の部品まで、現代社会には多様なプラスチック製品があるが、完成品が世に出るまでには精密な技術が必要だ。特に射出成形機の中で、できあがる高温のプラスチック製品を金型から素早く取り出し、所定の位置へ正確に並べる技術は、生産性向上のためのカギになる。

そこで活躍するのが、ユーシン精機の「射出成形品取出口ロボット」だ。1973年、京都・東山の小さな町工場から始まった同社は、1980年代に業界で初めて取出口ロボットの駆動にサーボモーターを取り入れた。これは従来機に比べ、飛躍的な作業の高速化と正確さを実現。たちまち業界をリードする存在へと成長した。1996年には業界初のタッチパネル式コントローラーを販売。2018年には、長年のサービス対応で培った膨大な症例データをもとにAIを構築。それにより、トラブル原因推定システムを開発した。取出口ロボットの異常を故障前に把握する予知保全を実現したのだ。このように、ユーシン精機は創業以来、業界初のチャレンジを続けている。

「できない、無理だ」は出発点
妥協しない技術者精神

トップを走り続けるユーシン精機では、開発・設計といったモノづくりに携わる技術職が多く活躍している。顧客が安心して利用できるようにするため、ロボットのメンテナンスや定期点検などのアフターサービスに力を入れているのも、強みの一つだ。

同社の社訓は「できない、無理だ、は出発点。できないとあきらめず、技術を駆使して多角的な視点で考え抜けばどんな無理難題も解決に導ける」という創業者の考え方に基づいている。技術の革新に妥協しない精神は、効率や生産性を重視するスタッフ一人一人の働き方にも直結している。「開発の現場ではコストパフォーマンスや無駄を省く発想が不可欠で、効率的に物事を考える社風が根付いている」と話すのは、入社9年目の松田翔太さん。入社後6年間、特注機の機械設計やロボットの機械開発に携わり、現在は広報や販促を担う部署に属している。「黒字経営には理由があります。ミスをしたら無駄な作業に気付いたりしたとき、部署を超えて改善していく仕組みがあり、人のせいにしていない。だから仕事に集中できて、成果につながるのです」。革新ある技術の創造と発展は、社員が働きやすい環境づくりによって生まれる。ユーシン精機はその環境づくりに大きな力を注いでいる。